

「知事意見書」は出たけれど……

●「住民の中に意見があるからよろしく」と言っているだけ

JR 東海の「環境影響評価準備書」に対し古田知事は3月25日「知事意見書」を発表しJR側に渡しました。これは、県環境影響評価審査会が前日に知事に出した「審査会意見」をほぼそのまま反映したもので、環境保全に関する58項目の「意見」を述べており、JRの対応によっては「必要に応じ…更に環境保全上の意見を提出する」としています。また、この間のJR側の態度が、あまりにも住民の声をまともに聞かない横暴なものだということを反映してか、「地域住民等に丁寧に説明する」ようJRに繰り返し求めていて注目されます。

けれど全体としては、かなり「弱腰」のモノ言いになっていて、住民が抱くような切実さがこめられていません。例えば、新幹線の3倍も必要というリニアの膨大な電力の供給は結局、原発頼みではないかと住民の深刻な懸念が出されていますが「知事意見書」には原発の「げ」もありません。

JRがやったという環境影響評価について「データが平均的で影響評価は不十分」などと指摘していますが、「市町によって様々な意見がある」からそれらを「踏まえ」「留意すること」とJRに求めるだけです。けれど例えば「断層の破碎帯があり（リニアのトンネルが通れば）川の水が地下へもぐってしまう…水がなければ水田を作れず生活もできない」という叫びの切実さは、とても「踏まえ」「留意」して済むような軽いものではなく、文字通り暮らしがかかった願いです。「知事意見書」は、そこにこたえていません。

結局「意見書」は書いたが「リニア事業」そのものは推進の立場だから、事業の進展を妨げるような強い意見は言えないということでしょうか。

地域公聴会では「県民のため一歩も譲らず（JRと）交渉を」との要望も。この願いにこたえ、住民を守る地方自治体の第一義の役割を果たすかどうか。知事の対応が厳しく問われています。

県民の切実な願いをぶつけているでしょうか？

●「可児市長は裏切るのか！」と住民から批判の声

岐阜県のリニア中央新幹線問題の一つの焦点は、可児市の「ルート変更要求」の行方です。大萱地区で人間国宝・荒川豊蔵らが尽力し発見・保存・再生させてきた志野焼など「桃山時代からの焼き物の歴史文化遺産」が、リニアの高架橋建設で破壊されるのを防ぐため「ルートを地下トンネル式に」と、住民も市議会も市長自身も一丸で声をあげ、JRにも県にも要望を届けてきました。ところが「知事意見書」は「地下化」要望には触れず終い。「重要遺跡を回避できる方

法を検討」せよと言うだけです。「回避方法」として住民が一致して「地下トンネル化」を求めているのに、それを明言しない知事。やはり根底に「リニア推進」があるから、JRとの決定的対決を避けたということでしょうか。

「知事意見書」を受け可児市長は即座に「地下化が反映されなかったものの文化財…の重要性に配慮」と評価。二日後には「地下化断念」を記者発表し「裏切りだ！」と住民の厳しい批判にさらされています。

予定沿線地域の交流会ひろく

リニアが通る予定の中津川市、恵那市、瑞浪市、土岐市、多治見市、可児市、御高町のみなさんと、初の交流会議を3月21日に恵那地区委員会事務所で開きました。

17人が参加して、各地の住民の思い、自治体の動き、JRの態度と問題点、関連する地域開発計画の動きなど出し合いました。

JR東海に無謀なリニア計画をそのまま進めさせてはならないと、国への署名運動を起こすことや、党派を超えた広範な地域連絡会をつくって運動していく方向など議論しました。



2014. 4. 5. No. 1
日本共産党岐阜県委員会
☎058-265-3871

4/20日

講演会へぜひ！

●とき 4月20日日

午後1時半～

●ところ 恵那市防災センター

リニアがまき散らす不安の大きな一つが電磁波問題。第一人者の荻野晃也氏（理学博士）が縦横に語ります。ぜひご参加を。

主催者への問い合わせは、大野さん、080-5123-1878 まで。

リニア新幹線と
電磁波問題

主催 / リニア問題を考える恵那市民の会

参加費 500円